

研究部課題

(五月二十二日締切)

(課題)

華

▽注意

(1) 半紙夕テ・ヨコ自由。

(2) 書体自由。

(3) 落款は「未谷書」と書き入

れること。

雅印は無用。(出品者の本名

又は雅号を入れた作品は失

格)

▽出品要項

(1) 資格—推薦、準推薦、推薦

格合格者(漢字・随意・か

なのいづれかで推薦格以上

であればよい。同人、準同

人も歓迎)

(2) 締切—五月二十二日必着

(3) 発表—書苑七月号誌上

(4) 出品料—九四〇円同封

私製の出品票(タテ10センチ

×ヨコ5センチ)を作品の左

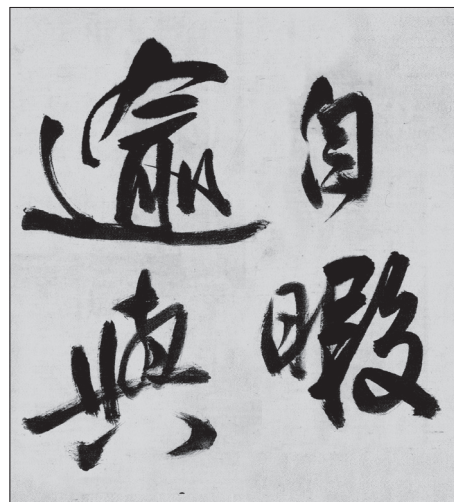
下にぶら下げて貼付する。

高橋香樹会長担当 半紙臨書課題

(5月22日締切) 出品料440円

王鐸(行書五律五首卷)

第三回
1、字句「自暇逾與」



『王鐸集』(二玄社)

2、形式 半紙タテ使用。右に「自暇」左に「逾與」と臨書し、左余白に落款「○○臨」と調和を工夫して書き入れる。

3、概観 王鐸は、明と清の二朝に仕えたということで清の乾隆時代に、著書は全部焼かれてしまっていて、その書や王鐸の持っていたものを、ほかの人が持つことはなく、中国ではあまり人気が無かった。日本では、江戸時代の中期ごろから少しづつ渡ってきた。王鐸の書だけでなく、倪元璐・黄道周・張瑞図など、明代の作品が一緒に入ってきたと言われています。中国では、明代になると、表現形式も横より縦のほうが自分の気持ちを表わしやすいいと言ったことで、横形式ばかりにこだわらなくなった。草書といっても、一字ずつ独立させて書いていたものがつなげていく。そのために、連綿形式が非常に流行してゆく。王鐸の書をよく観察すると、上の字の下部と下の字の上部がうまくつながるように書かれている。先月提示した長条幅を見るとよくわかるかと思えます。

4、各字のポイント

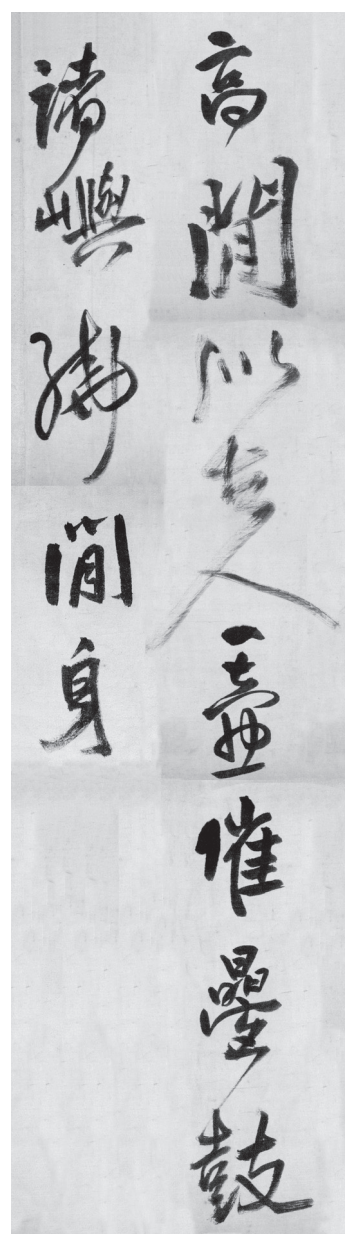
自 一画目強く突いて引き上げる。二画目鋒先で入筆。三画目の上から強く入筆。暇 日偏から連綿線を遣い終筆まで離すことなし。逾 一画目強く入筆し、一旦引き上げ鋒先を突き連綿。與 左の縦画から書き始め、右へ移動。最後の点は広く離す。

一字書課題 (5月22日締切)

幽

- (1) 書体自由 (2) 半紙タテ
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券の余白に「二字書」と記入

条幅随意参考



『王鐸集』(二玄社)

高閒似古人。一壺催疊鼓。諸嶼繞閒身。古人に似るをや。一壺疊鼓を催し、諸嶼閒身を繞る。

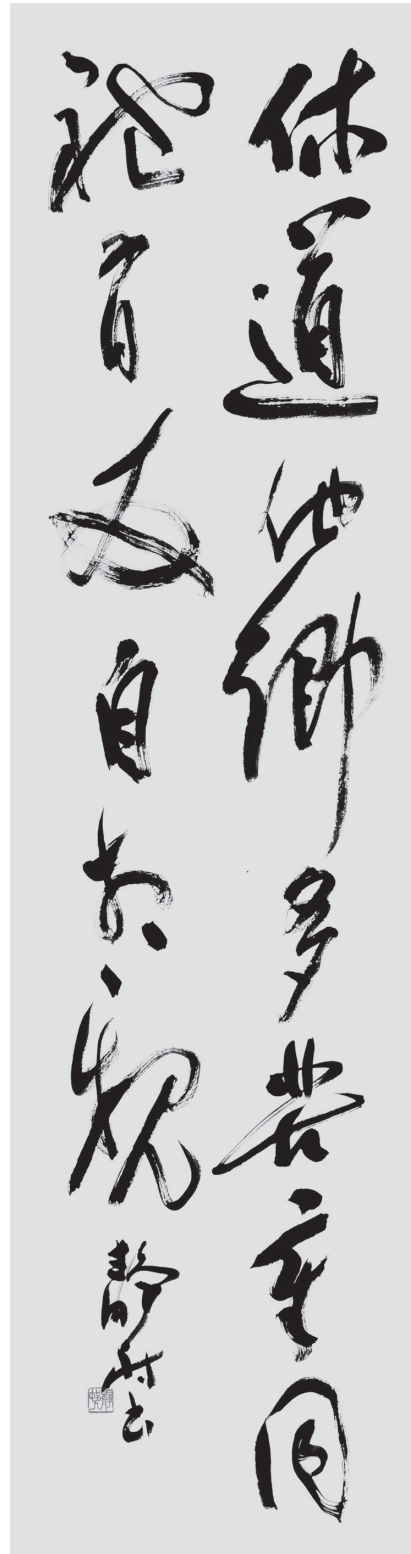
※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部(無料)にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

条幅部漢字課題参考

(五月二十二日締切)

A 鈴木静村先生書

休道他郷多苦辛 同袍有友自相親 (廣瀬淡窓)
道^いを休^やめよ他郷苦辛多しと。同袍^{どうぼう}友^{とも}有り自ら相親^{あひま}しむ。



B 高橋香樹会长書

廣瀬淡窓の「桂林莊雜詠」中の「起承」の二句。運腕の大きさ、自在の表現を心がけて。道 二点大きく弾ませる。之繞の末画左に張り出す。他から郷脈絡して強める。末画は上に出しゆったり長く。苦 墨継ぎ。五画目長く字幅。辛 草書体、字典で調べるが大切。同 内部の「口」を意識して。袍 草書体、字幅を大きく。友 クル、クルリとリズム的に。自 墨継ぎ、一画目、上から突いて入る。背勢で締める。相 草書体、点は重くしない。



今回は楷書にしました。今回は特別変わった文字はありませんが、「辛」は古典をみると、楷書では「辛」と横画が一本多い形が圧倒的に多く、「辛」を採用しました。ハネ・右払いは、鄭道昭を意識して書きました。

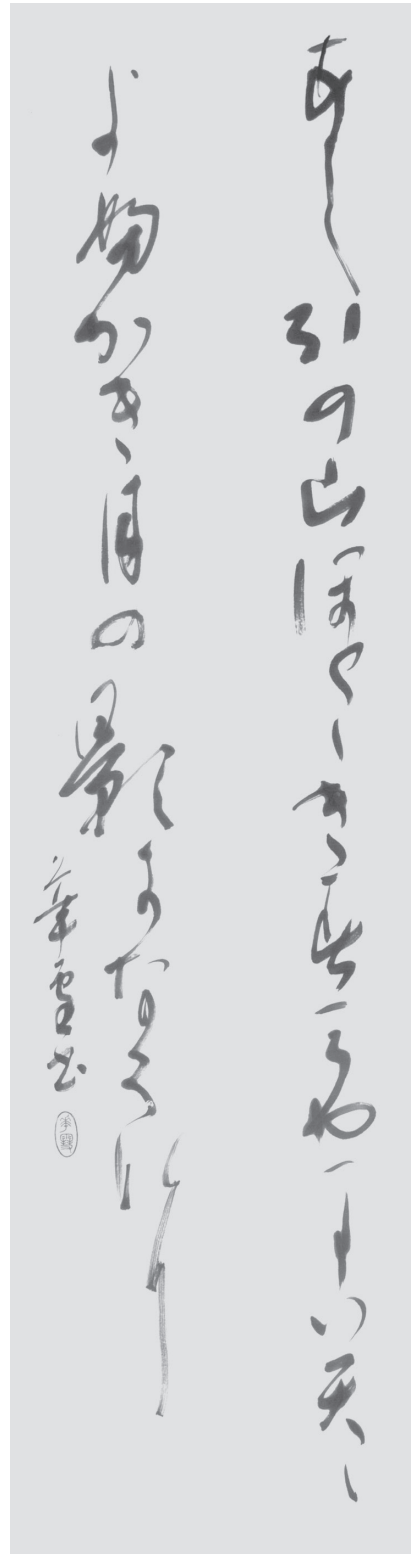
訳：同袍は袍(したぎ)を共同に使うように困苦を共にする朋友。故郷を出て他国に勉学する者がお互に苦勞を口することなく助け合いはげまし合ってゆく朋友愛を詠じた詩。

予告 (六月二十二日締切) 游人五陵去 寶劍直千金 分手脱相贈 平生一片心 (孟浩然)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

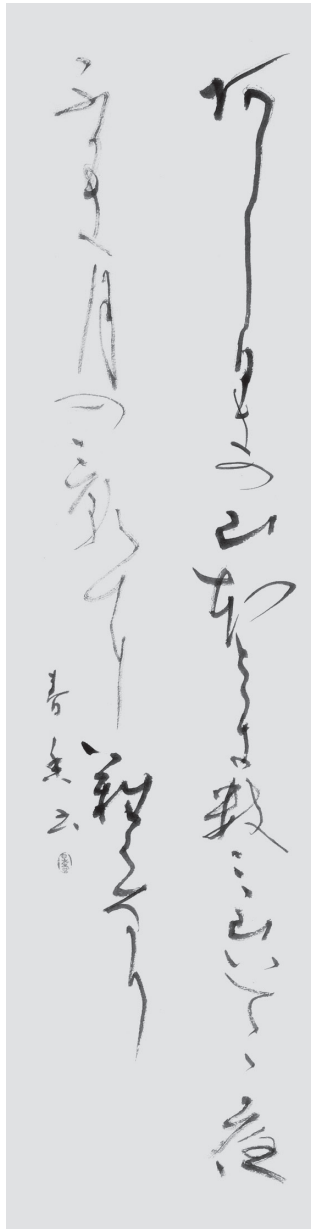
A
平岡華雪先生書

足引のやまほととぎすみいでて夜ふかき月の影に鳴くなり(金槐和歌集 源実朝)
あし引の山ほと、き春三や万い天、よ婦かき月の影耳な久那り



B
石原春香先生書

阿し日支の山本と、支数三山いて、夜ふ可支月の影耳難く奈り



金槐和歌集は、鎌倉時代前期の源実朝の家集。建暦三年(一二一三)十二月頃とする説が有力。万葉調の力強い自然の描写や、繊細な心情を詠んだ和歌が多く収められている。

学び方

二行書にしてみました。「山本と、支数」は関戸本古今集より。「ふ可支月の影耳」は月の影になく景色をおもいながら細く強い雰囲気表現してみました。文字の細太や、連綿による流れを考えて書いてみましょう。

予告 (六月二十二日締切)

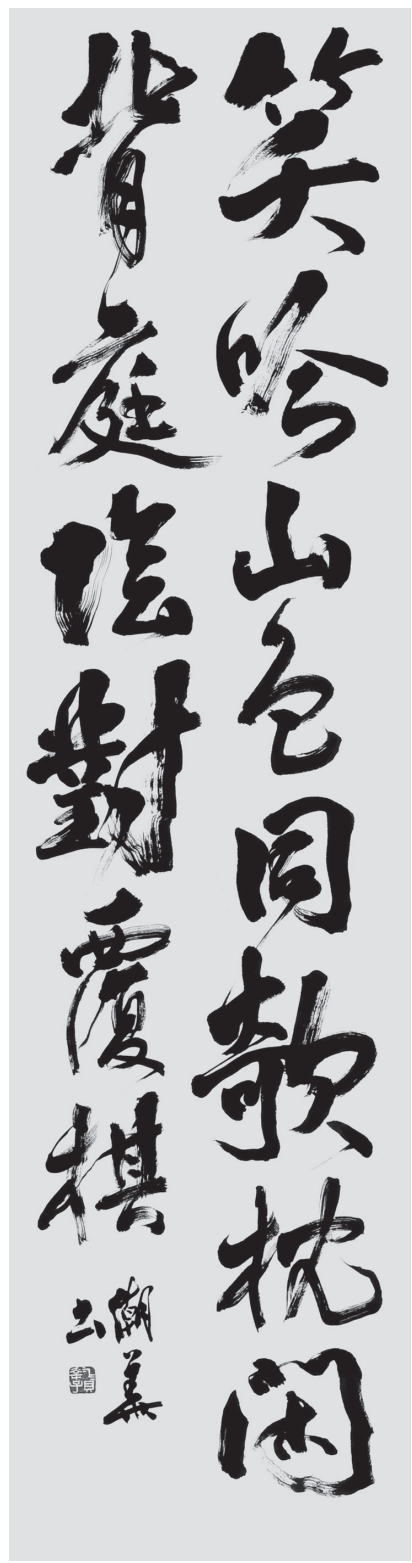
白露の玉もてゆへるませのうちに光さへそふ常夏の花(新古今和歌集)

高倉院御歌)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部 随意参考

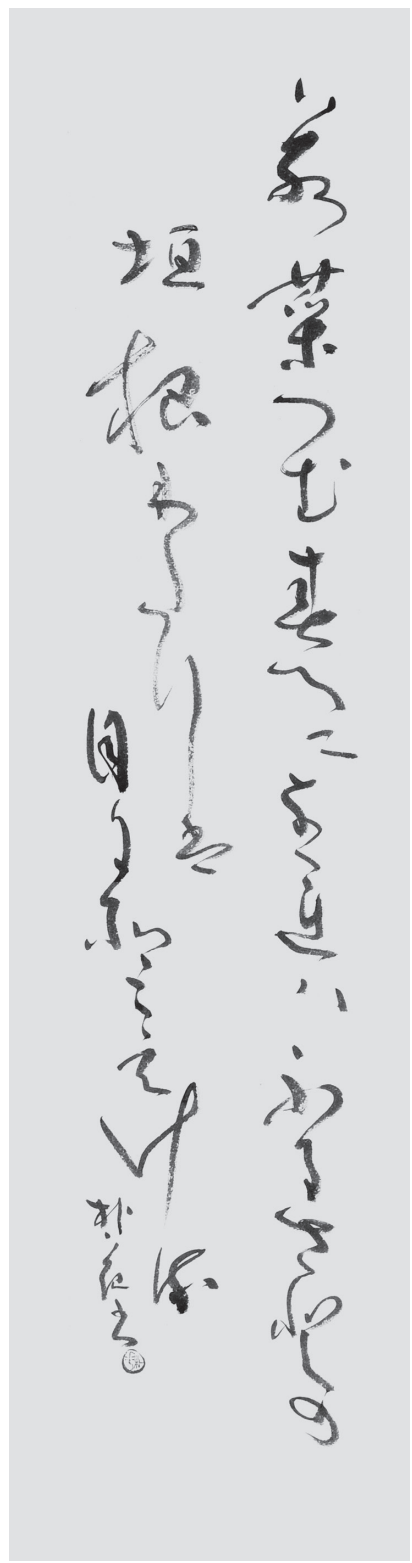
水貝潮華先生書



笑吟山色同欵枕 閑背庭陰對覆棋 (秦韜玉)
笑うて山色を吟じ同じく枕を欵て、閑に庭陰に背いて覆棋に對す。

訳：笑って山色を詩にして共に枕より頭をはなし、静かに庭の小かげを背面にしては崩した碁盤に向う。

向山朴花先生書

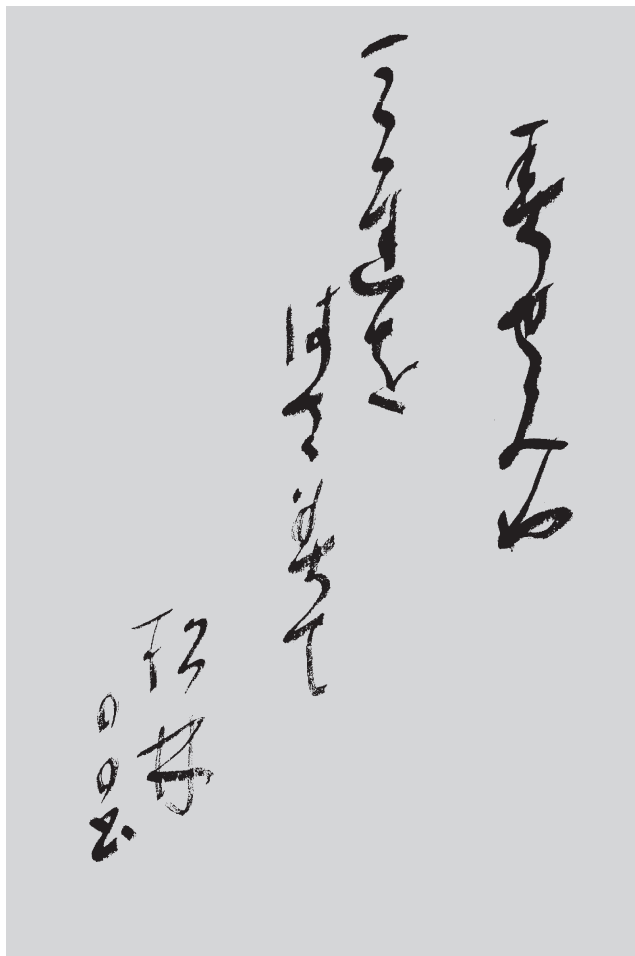


若菜つむ春べになれば故郷の垣根わたりは目にぞ見えける (木下幸文)
若菜つむ春べ二な連八ふるさ登の垣根万多利盤目尔所三え計流

歌意：若菜を摘むべき春になると、故里の家の垣根のあたりが目に見えて見える。

- ◆注意
 - ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

かな部課題参考 (五月二十二日締切)



平岡華雪先生書
春せみや道をはさみて松林 (虚子)
春せみや三運をはさみて松林

〔六月二十二日締切〕 名園依緑水 (杜甫)
「異質な線条の表出を」、遊糸連綿ですらすらと書いただけでは深みと味わいには遠い。大切なことは線質の妙を、どう表出するかです。

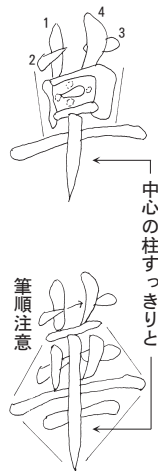
筆順

(六月二十二日締切) ほととぎす鳴くや湖水のささにこり (文章)

漢字部課題参考 (五月二十二日締切)



平岡華雪先生書
百草春華を競う。
訳：どの草も春の花を咲かせて妍を競っている。



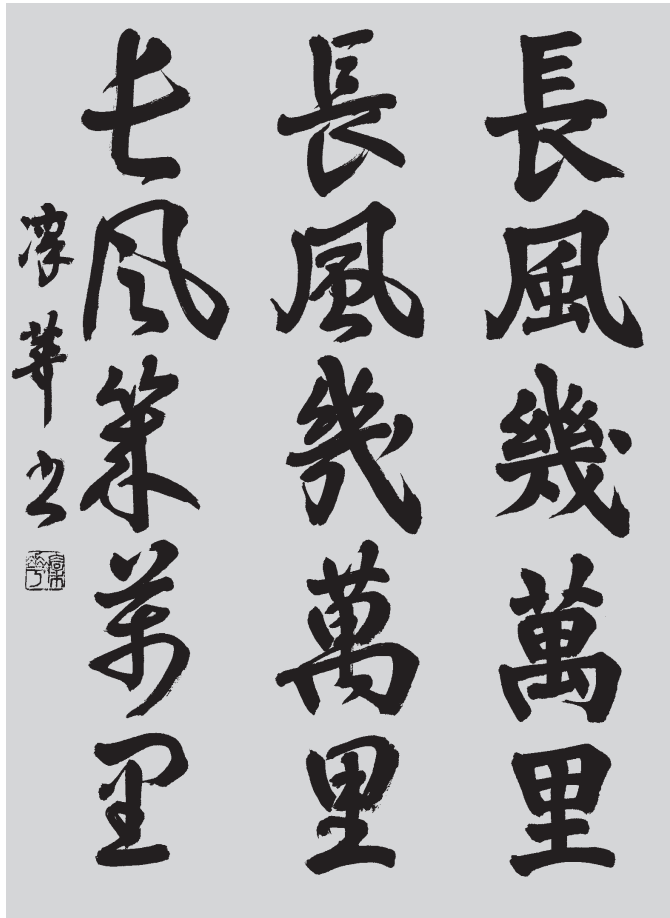
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門(例:「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (五月二十二日締切)

漢字かな交じりの書課題参考 (五月二十二日締切)

訳：遠く吹きよせる風は幾万里

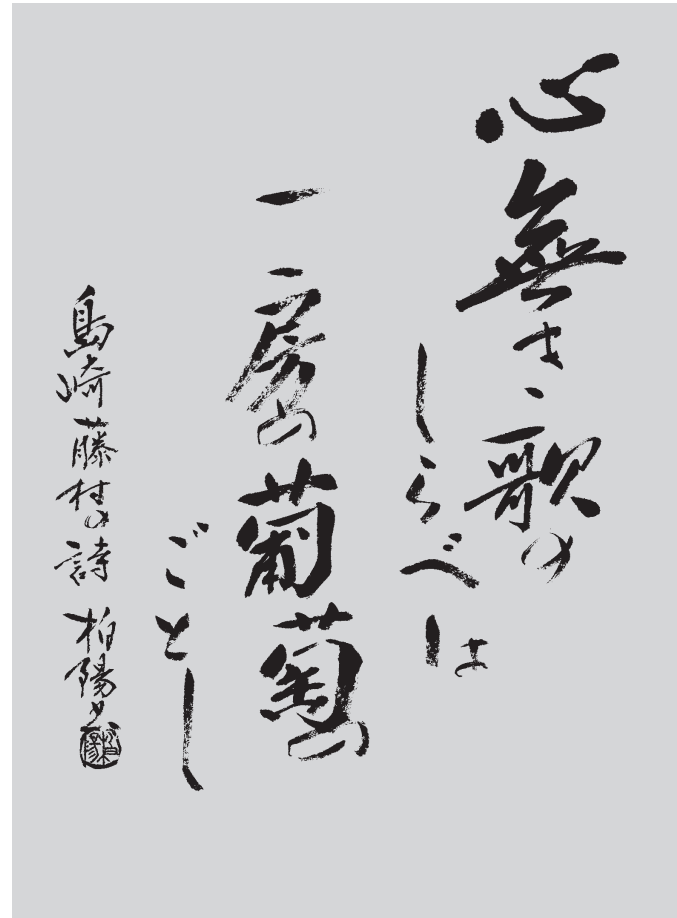


勝間 凜華 先生書

長風幾万里 (李白)

長風 幾万里

島崎藤村(一八七二—一九四三)は詩人・小説家。課題の詩は、藤村の処女詩集である『若菜集』の冒頭に収められた「序のうた」の最初の部分です。『若菜集』は、日本におけるロマン主義文学の代表的な詩集で、「初恋」「秋風の歌」などの詩が有名。この課題参考では、潤渇の変化を意識し、「葡萄」で墨継ぎをしました。



岩佐 柏陽 先生書

心無き歌のしらべは 一房の葡萄のごとし

「島崎藤村」

(7)

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

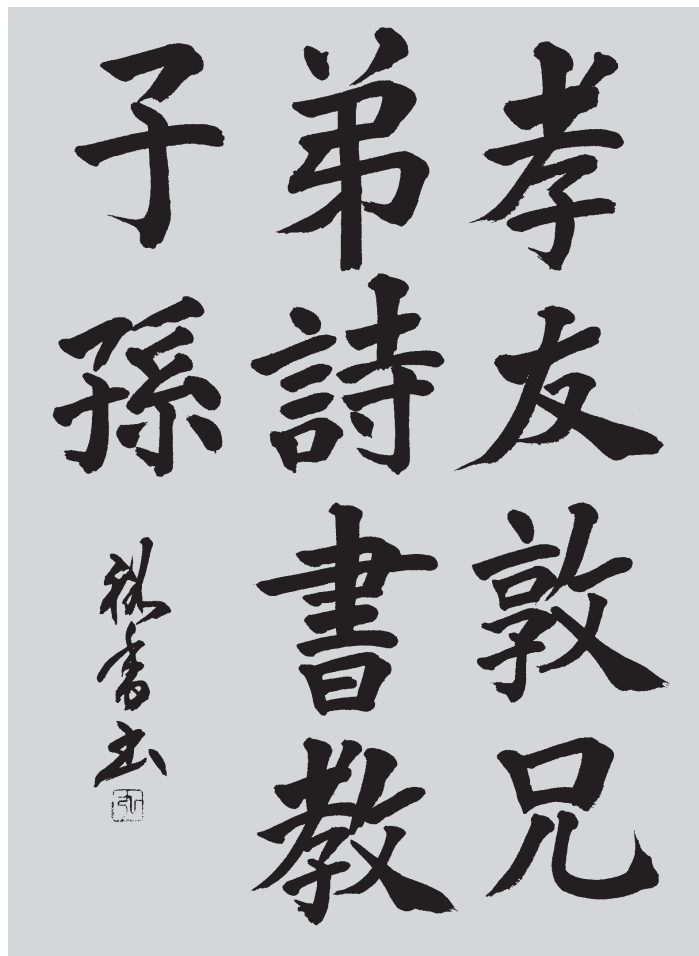
(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

随意部参考

金子裕香先生書

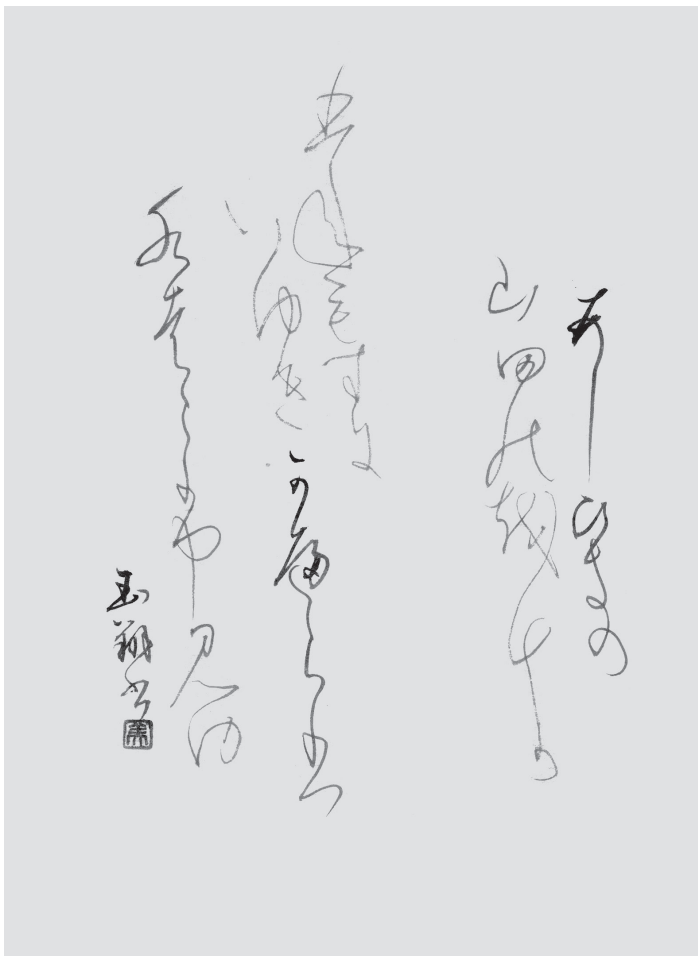
孝友敦兄弟 詩書教子孫 (楊傑)
孝友兄弟に敦くし、詩書を子孫に教う。



訳：孝道と友道とを以て兄弟間を仲よくし、詩經書經を子孫に教えて身を修め家を整える道を知らしめねばならぬ。

福田玉翔先生書

あしひきの山田のをちがひねもすにい行きかへらひ水運ぶ見ゆ (良寛)
あしひ支の山田能越千可非年毛す尔いゆき可遍ら悲水者こ布見ゆ



歌意：山の田を作る農夫が、一日中、往ったり復ったりして、水を運んでいるのが見える。

硬筆部昇試課題参考

(五月二十二日締切)

赤木典子先生書

昇試課題2 (初段格以下)

石原春香先生書

昇試課題1 (師範以下初段以上)
 (※正教授合格者はこの課題を書かないで下さい)

『枕草子』は、機知と教養を駆使して、
 「今、生きてゐることの喜びと充実」
 を実現した。

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたる例なし。

※正教授合格者は創作部門(自運作品、自由形式)に出品して下さい。出典をバーコード券に記入して下さい(作品の中に書いても可)。

課題1 (初段以上)

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたる例なし。

『方丈記』鴨長明)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に、次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 受験料は一、〇二〇円
- (6) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。)

課題1 九九〇円
 課題2 五五〇円

課題2 (初段格以下)

『枕草子』は、機知と教養を駆使して、「今、生きてゐることの喜びと充実」を実現した。

『響映する日本文学史』島内裕子)